

仏教保育

1
Jan.

伝えよう ^{いのち} 生命の尊さ ^{ほとけ} の心

新春のごあいさつ

平成 29 年が明けました。
謹んで新春のお慶びを申し上げますと共に
皆様のご多幸と更なるご発展を祈念申し上げます。

公益社団法人 日本仏教保育協会
理事長 緑谷 一雄



るようです。

新制度のポイント
「子ども・子育て支援新制度」がスタートして、2 年が経ちました。



新制度のポイントの一つは教育・保育の量的拡充と質の向上・充実にあります。一億総活躍というフレーズを受けて、平成 29 年度の予算は「待機児童解消」に向けた保育の受け入れ拡充や、保育士確保のための処遇改善を重視しており、優先的に確保され

各自自治体においても保育士確保のための施策が進められています。待機児童解消という名のもとに、少々「やり過ぎ」ではと思われるケースも聞こえてきます。数を増やすことは必要ではありませんが、保育士としての「質」は何よりも優先されなければなりません。

「質の向上」で重要なポイントは、教育・保育の評価と子どもの財源が内閣府のもとで一元化されて保育所、幼稚園、認定こども園が施設型給付になっているにも関わらず評価の体系は二元的なままとなつていきます。統一的な第三

者評価はなかなか難しいようです。「忠恕」の精神で臨みたいものです。

実り多かつた「福島大会」に感謝

昨夏開催の「第 34 回全国仏教保育福島大会」は、およそ 700 名の参加を得て、無事に終えることができました。

『合掌の姿に花は咲く』被災地（ふくしま）で学ぶ生命尊重の保育の大会テーマのもと、人間本来の生き方と言える「向き合う・寄り添う・支え合う」という教えを講座や実技で学び、保育に生かす研鑽を積み、実りある大会となりました。

何よりも分科会のメインとなった「ワールドワークバスツアー」での原爆事故被災地飯館村視察にはバス 3 台に分乗しての見学となり、参加された先生方から「原発問題を真剣に考えさせられた」と感想が寄せられました。

また、懇親会では白虎隊の剣舞、二本松の提灯祭り、フラガールの皆さんによるハワイアンダンス等々、手作りの余興に大いに盛り上がりました。福島先生方、改めて感謝申し上げます。

来年は名古屋で

次回「第 35 回全国仏教保育愛知大会」は平成 30 年夏、名古屋で開催します。愛知支部の先生方が英知を集結し、名古屋ならではの研鑽と楽しさを満喫できる大会となることでしょう。来年は名古屋でお会いしましょう。

今年の干支は「酉」です。酉（にわとり）は、いちにちの始まりを告げる。縁起の良いものとされています。元気で踏み出しましょう。



菩提樹学園の調査報告を受けて

日仏保副理事長 高山 久照

菩提樹学園の教育事業は、公益財団法人国際仏教興隆協会（K B K K）の基幹事業であるインド、ビハール州ガヤ県のブツダガヤにおける宗教福祉事業の一つです。昭和 43 年以來、印度山日本寺を中心とした K B K K の事業運営は経営努力により維持されているものの、現在資金面では毎年の資金収入漸減に加え、インド経済の諸物価及び人件費の高騰、日印為替レートにおける円安などの要因により、厳しい運営を強いられています。この状況に危機感を抱く K B K K は現在、同協会の「再生活性化委員会」の提言（平成 28 年 5 月）を受け多角的に事業運営の見直しに取り組んでいます。

この流れを受け、「印度山日本寺社会事業調査」（平成 28 年 9 月 11 日～18 日）が実施されました。調査は大橋正明・聖心女子大学教授をリーダーとする調査チームによるもので、調査対象の社会事業は無料の診療施設「光明施療院」と、日仏保が協力助成

するところの無料幼児教育施設「菩提樹学園」です。
菩提樹学園に関しての報告の抜粋、要点は以下の通りです。

1. 菩提樹学園の費用対効果について

他校に比べて正確な数値はこの調査で得ることはできなかつたが、おそらく経費は他校と比べて数割高いが、その分、教育は細やかで質がよく保たれているという印象である。

2. 給与水準と教師の質

菩提樹学園の教諭の給与水準は、公立学校を除く他の学校より 2 割程度高い水準にある。学園の教諭たちはよく訓練され献身的である。しかし、他の学校の教員に比べると学歴は少し低い。

3. 就学前児童の教育二ドの確認

ブダガヤやその周辺には、外

国から資金を得て学校を開設・運営する N G O や寺院などが、他地域と比べて数多く存在している。菩提樹学園周辺の N G O 立、寺院立や私立の学校には就学前教育を行っているものも多いため、就学前教育二ドは菩提樹学園創設時よりも小さくなっている。しかしまだ、公立学校は就学前教育を行っていない。周辺の学校が受け取る幼稚園への入学応募状況の数を聞く限り、就学前教育希望者全員を受け入れるキャパには達していないと推計される。それゆえ、菩提樹学園がこの分野で果たす役割はまだ存在すると言える。

4. 卒園者の進学先での進級の遅れについて

少なくない数の卒園生が、最近の主要な進学先である 3 校（Pragya Vihar、STMG、School and Mahabodi Vidyalaya）で小学 1 年に編入する者がいるが、多くが主に年長組（Upper Kindergarten）、時には

年少組（Lower Kindergarten）に編入されている。このため、この年代において 1～2 年間で無駄になり、後には稼働開始年が遅れる。そして小学校時は同級生との年齢ギャップが大きくなる、といった問題が生じている。

この主な原因は、菩提樹学園の卒業生たちの字の読み書きなどの学力不足であると進学先の校長たちは指摘する。進学先の学校がそれぞれ有する幼稚園を含めた学年ごとの達成目標はインドに一般にみられる詰め込み教育でさらに多くの知識量を要求しているからだ。これはインド人の両親の期待でもある。

日本人から見ると、今の菩提樹学園の教育内容とその求める知識量は、あまりに詰め込み過ぎであるという印象を受ける。

また私たちは、できる子を伸ばすよりできない子を救うことを求めがちである。これに加え、日本のダンスや折り紙をはじめとした情操教育やゆとり教育の取り入れは、知識量を伸ばす時間を圧迫していることは容易に想定できる。

つまり菩提樹学園の教諭たちは、日本とインドの教育に対する期待や文化の違いの板挟みになり、卒園児の進級の遅れという問題にも直面している。

5. 提案

この問題は文化的社会的なものである以上、容易に解決できないと思われる。それでもまずは、主な進学先の 3 校と菩提樹学園が十分話し合い、それぞれの学校が、また何よりも幼い生徒たちが、時間や金といった貴重な資源をより効率的に使えるように、カリキュラム内容を相互に調整したり、菩提樹学園の卒業生が 1 年生に進学した場合（あるいは年長組後期）に、特別の補修クラスを設けるといった取り組みが必要であろう。

(参考)

インドの学校教育段階（菩提樹学園は就学前教育に該当）

就学前教育	年少組 (Lower Kindergarten)	～ 6 歳
	年少組 (Upper Kindergarten)	
義務教育	初等学校	6 ～ 11 歳 (5 年間)
	上級初等学校	11 ～ 14 歳 (3 年間)



ヒンディー語の授業 1



ヒンディー語の授業 2



英語の授業



九九盤を指さし復唱し掛け算を暗記



クラス開始前の園児たち



お絵かき

報告を受け、改めてインド社の幼児教育の状況が日本とは同一には語れないことを痛感しました。菩提樹学園のプログラムでは、現在4歳児クラスから二桁同士の掛け算や文字指導を行っています。それでも卒園児が進学先で学力不足のため、再び年長組に編入させられるケースが多く、現地の状況に合った教育の内容と質の確保が求められていると言えるでしょう。

経済成長が続くインドにおいて、その恩恵を受けることの少ない階層の子どもたちが通っている菩提樹学園。その子どもたちがより有意義な園生活を送ることが出来るよう検討する必要があります。

菩提樹学園の運営が持続可能であるためには、資金面の安定と、菩提樹学園の教育の目的の明確化が重要であると考えます。

第59回

釈尊成道を祝う

「幼児と母のつどい」

平成28年12月6日／よみうりホール



平成28年12月6日、有楽町駅前のおよみうりホールにおいて東京仏教保育協会の成道会が開催されました。本会は「釈尊成道を祝う幼児と母のつどい」という名称で、今年59回の開催となります。東京仏教保育協会加盟の幼稚園、保育園より約600名の親子が参加されました。副委員長の五島満先生より会式の言葉があり、その後、お釈迦様のお悟りのお姿のご絵像に向かって参加者全員が合掌礼拝し、成道会が始まりました。

はじめに委員長の安藤文隆先生から成道会のお話を頂きました。「嘘をつかない・弱い者いじめをしない・物を大切に」「この子どもたちにとって、また大人にとっても大切な心を、お釈迦様のお悟りになぞらえながらお話されました。

また、公益社団法人日本仏教保育協会常任理事の高輪真澄先生からもお祝いの言葉を頂きました。

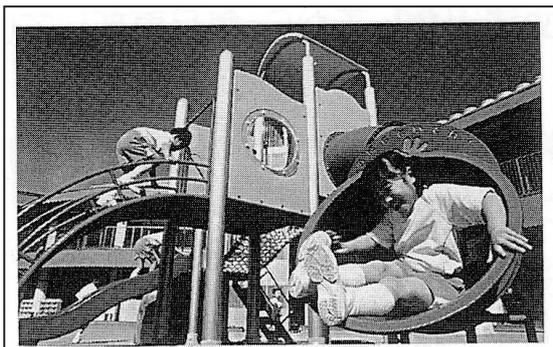
した。客席の親子ともども、両先生のお話を静かに聞き入っていました。その後、真言宗豊山派保育連合会からご導師と式衆が尊前にご出仕されて、全員で合掌し、誓いの言葉を唱和いたしました。そして四弘誓願のメロディが厳かに流れる中、参加園の代表園児により、お釈迦様のご尊前に献花が行われました。お釈迦様の前が花でいっぱいになったところで、全員で「成道会のおた」を歌い、ホールの中にお釈迦様のお悟りを讃える子どもたちの声がきれいに響きわたりました。休憩をはさんでお楽しみの人形劇の始まりです。「ヘンゼルとグレーテル」の物語が、着ぐるみの躍動的な人形劇でステージ狭しと上演され、歓声と笑顔に会場が包まれました。

お釈迦様のお悟り「成道」が親子にとって、心の記憶に残るものであってほしいと願います。

第23回真宗保育学会大会 浄土真宗本願寺派開催報告

平成 28 年 10 月 28 ・ 29 日 / 武蔵野大学

武蔵野大学非常勤講師 高輪 真澄



すべては、子どもたちのために。

地域特有の個性と文化を育み、
保育環境の未来を提案する。
それが、私たちの仕事です。

株式会社 ジャクエツ
www.jakuetsu.co.jp

平成 28 年 10 月 28 日・29 日に東京の武蔵野大学雪頂講堂並びにグリーンホールを会場として「第 23 回真宗保育学会大会」が浄土真宗本願寺派保育連盟の後援で、「真宗保育の本質を考える〜育ちあういのち〜」をテーマとして開催されました。参加者は全国から約 80 名。基調講演、シンポジウム、そして研究発表が行われました。

「真宗保育学会」は 1997 年真宗保育実践を行う上での学問的研究をしていく目的で本願寺派保育連盟と宗門の教員養成を行う大学が集まって設立されたものです。年に 1 回の大会を各地で開催しています。会員には保育連盟に所属する園の教職員や大学の教員がなっています。所属する大学は武蔵野大学、龍谷大学、京都女子大学、相愛大学、兵庫大学、岐阜聖徳学園大学、筑紫学園大学、九州龍谷短期大学、東九州短期大学などです。

基調講演は、本年より就任された西本照真武蔵野大学学長より「いのちの色・いのちの音」というテーマで、いのちを大切に保育について例を挙げながらの講演でした。次にシンポジウムが行われ、大会テーマについて各シンポジストから話を伺いました。シンポジストは山崎龍明武蔵野大学名誉教授、幼稚園代表として井上悦子武蔵野大学附属幼稚園主事、保育園代表として常葉大学非常勤講師の土山雅之白道保育園園長、コーディネーターとして武蔵野大学非常勤講師の高輪

真澄光輪幼稚園園長が担当し、育ちあう保育について話し合われました。翌日は、研究発表が行われました。

園児から学んだこと
工藤敬子 天童幼稚園教諭、舟越睦子 同教諭
4. 「いのちの繋がりに芽生える保育実践」真宗保育（まことの保育）からの一考察
貞松征夫 九州龍谷短期大学元学長、松田順子 東九州短期大学教授

1. 「真宗（まことの）保育」の実践における仏典童話の活用に関する「一考察」
鎌田 恵長 浜愛児園園長
2. 「子育て・子育て支援における地域との連携」〜大阪の地域貢献支援員『スマイルサポーター』事業等を生かした保育園の取り組み〜
岩田公子 常称寺保育園園長、白神明子 副園長
3. 「関わりの中で生かされているということ」〜場面緘黙の

○ポスターセッション
特色ある教育活動の一角を担う動物飼育体験
武蔵野大学附属幼稚園
◇ 2017 年度は 10 月に九州龍谷短期大学にて大会が開催される予定です。

事務局日誌

12 / 5 「仏教保育」「仏カリ」編集会議
事務局会議

12 / 6 東仏保「成道会の集い」
よみうりホール



「高齢者と若者」

●これまで65歳以上とされていた高齢者の定義について、日本老年学会と日本老年医学会は75歳以上とするべきだと提言された。65歳から75歳までは「心身ともに元気な人が多く、高齢者とするのは時代に即さない」というのが提言の論拠である。そこで、この年齢層を「准高齢者」と位置付けしたという。

もともと、高齢者についての厳密な定義はない。65歳以上の身体能力の速度は上がる傾向にあり、生物学的に見た年齢は20年くらい前と比べると10歳ほど若返っている。こうしたことから高齢者は75歳以上とし、65〜74歳は「高齢者の準備期間」と位置づけ『社会を支える人たち』と据え直している。因みに90歳以上は「超高齢者」とした。

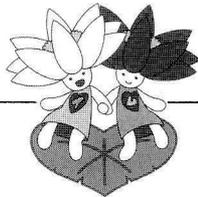
高齢者の定義を変えるのは結構だが、社会福祉がネガティブにならないことを願う。

●今年の成人式は1月9日。20歳を迎えた若者を祝い励まし、大人になった自覚を促すのが開催の目的である。しかし、若者たちのモラルの低下が目立ち、式典当日のトラブルが絶えない現状に「成人式廃止」を指摘する声が出てきた。選挙権が18歳に引き下げられたことで、20歳という概念が崩れたのかも知れないが、皆さんはどう思われますか？

編集後記

■明けましておめでとうございます。皆様には爽やかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。■今年の干支は「酉」。夜がほのぼのと明ける「あさぼらけ」、一日の始まりを告げる「どり」の声に目覚め、いそいそと仕事場に出かける人たちの姿は『今は昔』の風物となりました。そんなノスタルジーに耽るうち、「酉」について知りたくなり調べてみました。■「酉」は、酒を入れる容器を現した漢字だとか。言われてみれば「酔う・酩酊・お酌・焼酎」等々、お酒の香りが漂ってきそうな漢字になっています。酒の部首も酉でした。■昔からニワトリは新しいことの始まりを告げる鳥としても親しまれてきました。古事記にもあります。太陽の神・天照大神が天の岩戸に姿を隠して世界を闇にしたとき、常世長鳴鳥（とこよのながなきどり）が岩戸の前で鳴き、それに合わせて舞う踊り子たちが気になって天照大神は岩戸から出られたという神話がありました。■因みに、ニワトリは産んだ卵が巣から無くなると、また産むという習性を持っています。その『律儀な勤勉さ？』は見習うべきかも知れません。（〇・一）

公益社団法人 日本仏教保育協会
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4
ホームページ <http://www.buppo.com/>
電話 03(3431)7475・FAX03(3431)1519
発行人 緑谷一雄 編集人 五島 満
毎月1回1日発行(1部315円)



仏教保育綱領

慈心不殺 生命尊重の保育を行なおう
仏道成就 正しきを見て絶えず進む保育を行なおう
正業精進 よき社会人をつくる保育を行なおう

紙芝居 おしやかさま 全4巻

○おたんじょう(12場面) ○四つの門(13場面) ○おさとり(16場面) ○ねはん(12場面)

セット定価 本体¥20,000 (8%税込¥21,600) ※分売不可

脚本・絵／諸橋精光 画面38.2×26.5cm 豪華化粧箱入り

保育現場や布教活動の場で幅広くご利用いただけるよう、おしやかさまのご生涯を4巻に分け、幼い子どもでも集中力を保てる適度な場面数で仕立てました。



ご注文
お問い合わせ

すずき出版